

## 第2回 雲出川下流における避難のあり方検討会 議事要旨

| 意見  | 説明内容   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・HWLとは何か。どの頻度で、水位はHWLに達するのか。100年に1回の頻度で、HWLに達する洪水が来ると考えていいか。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●HWLとはHigh Water Levelの略で、計画高水位のことを指し、河川が安全に流せる水位となっている。100年に1回の大雨が降った場合の水位を考えている。当面には、河川の整備計画で設定されている35年に1回に起きる洪水の水位を設定している。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・案2の高さはいくらか。また、9ページの危険水位はおおよそ4.8mであるのはなぜか。</li> <li>・4.8mから5.0mになっているが、その理由は何か？</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●水位上昇率が0.44mで計算し、リードタイムを2時間としているので、約5mである。案2の考え方と同じような考え方でリードタイムを考慮した設定としている。</li> <li>●堤防整備などが進み、設定したときと状況が異なるためである。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・高さに変化があるのは、治水計画が進んで安全になったからなのか。</li> <li>・案1は、リードタイムを考えていない危険水位の設定なのか。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ガイドラインで、発令のタイミングが変わっている。したがって、4.8mと5.9mの単純比較はできない。堤防天端から余裕高を引いた高さ＝氾濫危険水位で避難指示をこれまで出していた（4.8m）。しかし、ガイドラインが出てからは、この高さが避難勧告を出す高さとなっている（5.9m）。それ以降、堤防整備、河床掘削などの河道の整備が行われており、5.9mの高さに変わってきた。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・水位によって、発令のタイミングが変わっている中で、非常に複雑になってきており、どう変わったのかが分かりにくくなっている。避難勧告を出すタイミングという話でいうと、4.8mから5.9mに変わったということか。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●その通りである。水位だけで申しあげると、氾濫危険水位は、4.8mから5.9mに変わった。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・1m上がったとしても、十分安全になったということではないか。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●河川整備が進んだ結果、安全な水位となったと考えている。</li> <li>●また、ガイドラインでは、住民の避難が促されていないという中で、本当に危ないときに避難勧告を出すこととなった。ただ、この検討会では、その考え方を含め、その設定が正しいかの議論をしてほしい。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回はいろんな行政の方がいると思う。なかなか自治体ということで、命令を出すのは大変だと思うが、やはり勧告と指示はどちらのレベルが強制的かというのは分かりにくい。</li> <li>・「避難指示（命令）」という記載にしてはどうか。たとえば27ページの図を見ると、双方が破堤するように見えるが、実はどちらも破堤することはあり得ない。どちらかが破堤すれば、そちらの浸水が進み、一方は安全になる。</li> <li>・一方の自治体の方が先に避難勧告を出すというようなことも説明された方が分かりやすい。</li> </ul> | —  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前、4.6mで避難勧告を出していたことがある。それが5mにあがったことを説明するというのが大事というのではなく、やはり住民の避難が大事なので、避難に重きを置いた説明が大事である。</li> </ul>   | —  |

## 第2回 雲出川下流における避難のあり方検討会 議事要旨

| 意見   | 説明内容  |
|--|---|
| <p>・案1にするか、案2にするかはいつ決めるか分からない。また、「避難指示を出すのは天端に達したとき」というのが、明らかに遅すぎるのではないかと意識があり、東京は何を考えているのかと知っている。</p> <p>・雲出川の整備が進んできたため、水位を見直そうということについては、今回の検討会で合意を得たと考える。あとは、事務局の方で、案1、案2を再検討していただきたい。</p> | <p>●次回は5月に検討会を想定中であり、今回の意見を含めて発令のタイミングを再検討するので、検討会にて再度精査願いたい。</p>   |
| <p>・今後のあり方について。<br/>国交省のガイドラインについて、消防団の方々から出た意見を勘案していただき、実際に住んでいる住民がどのように受け止められるかに関して意見収集し、時間をかけて設定していただきたい。</p>   | <p>—</p>  |
| <p>・河川が安全になったら水位を変えるというのは賛成。大事なのは、避難勧告等の発令について、住民に分かりやすい説明を踏まえうえて、設定することだと考える。従って、ここで決まるような話ではなく、住民の意見を取り入れる場を設定する必要があるのだろうと考える。</p>   | <p>—</p>  |
| <p>・想定外の災害がよく起きており、最近の傾向であれば、避難基準を緩める方向に動いていると思うが、市民のメリットという観点でどう考えているのか。</p>  | <p>●内閣府の方からガイドラインの見直しが出されたため、見直す必要がある。その背景として、避難頻度が多いことと、避難勧告を出しても避難されない方が多いので、避難勧告の出し方を全国的に再検討することとなった。</p>  |
| <p>・避難勧告や避難基準水位については、主要点としては市民の安全であり、避難を促すのは自治体の役割。避難されない方が多いからといって、見直しをするべきだろうか。</p>  | <p>●基本的には、ガイドラインに従う。ガイドラインによると、避難頻度が多い、避難勧告を出しても避難をされない場合があるため、避難勧告の出し方を考える必要がある。</p>   |
| <p>・8ページの案1について、避難指示が出たときは破堤しているということか。<br/>天端までいっていたら、消防団も行政も、危なくてられない。</p> <p>・8ページ下部について、「夜間等において・・・氾濫危険水位到達までに避難を完了しておくことが望ましい。」と書いてあるのだから、危険水位が出た際に、避難指示を出すべきではないか。</p>                   | <p>●現在は河川の整備が進み、安全にはなっているものの、ガイドラインに従って決めるのがすべてではないと考える。案2については、これまでの設定の考え方と大きく変わってはいない。安全側をとった考え方（案2）でいくべきか、本当に危ないときのみの勧告を出す方法（案1）でいくべきかを検討していただきたい。</p> <p>●ただ、治水事業は進んでいるため、危険水位は上げさせていただきたい。</p> |
| <p>・（5ページ） 4.8から5.9mにあげるということであるが、数字はどこからでるのか？</p> <p>・1.1m上げることに意味があるのか。<br/>住民や皆様の意見を聞いてから進めるべきだと思う。なかなか地域住民の意見は、上に伝わらないのが現状である。また、間もなく台風が来るが、いつまでに作られるか。</p>                                | <p>●実際の堤防高を見て、余裕高を引いた数字が5.9mである。</p> <p>●台風が来るまでに作る予定である。</p>   |

## 第2回 雲出川下流における避難のあり方検討会 議事要旨

| 意見  | 説明内容   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 水位の高さではなく、過去に、津市では避難勧告が出されているのに、松阪市で出されていない事例があった。住民からすれば、隣の市で避難勧告が出ているのに、自分の自治体で出していないのは不安になってしまうが、どう考えるか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難勧告に関しては、首長の判断も影響している。ただ、破堤についての図を見ると、津市の方が先に破堤することが分かる。それぞれの地域によって、地域住民の安全面を考えて、どのように説明していくか、行動していくかについては考え方が異なる部分もある。</li> <li>●首長の考え方、地理的な考え方、整備のされ方も異なる部分がある。そのため、今後の勧告の発令については、それぞれの市で考え方が異なってくるのだろうと考える。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料2を先に提示されたが、その経緯を具体的に説明してから、数字を提供してもらわないと住民にも説明できない。まず、5.9mという数字に至った理由を教えてください。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●先に資料4を説明させていただきたい。<br/>(1ページ～10ページ)内閣府から出されているガイドラインのポイント説明<br/>11ページ：100年に1回程度の浸水想定区域について説明【資料-4にて説明】</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 避難勧告と避難指示のどちらが、レベルが高いということについて、住民に周知が進んでいない。</li> </ul>  | —  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 今回のような検討があり、住民も避難することができているので、このような検討会はすごくありがたいと感じている。</li> <li>• ゲリラ豪雨が降った場合のシミュレーションも考えていただきたいと思う。</li> </ul>        | —  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 雨が降った際に、ダムにためれば、かなりの水量が貯められるはずである。放流の時期を調整して、雨をためるようにしていただけないか検討してほしい。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●機会があれば検討したい。</li> </ul>  |